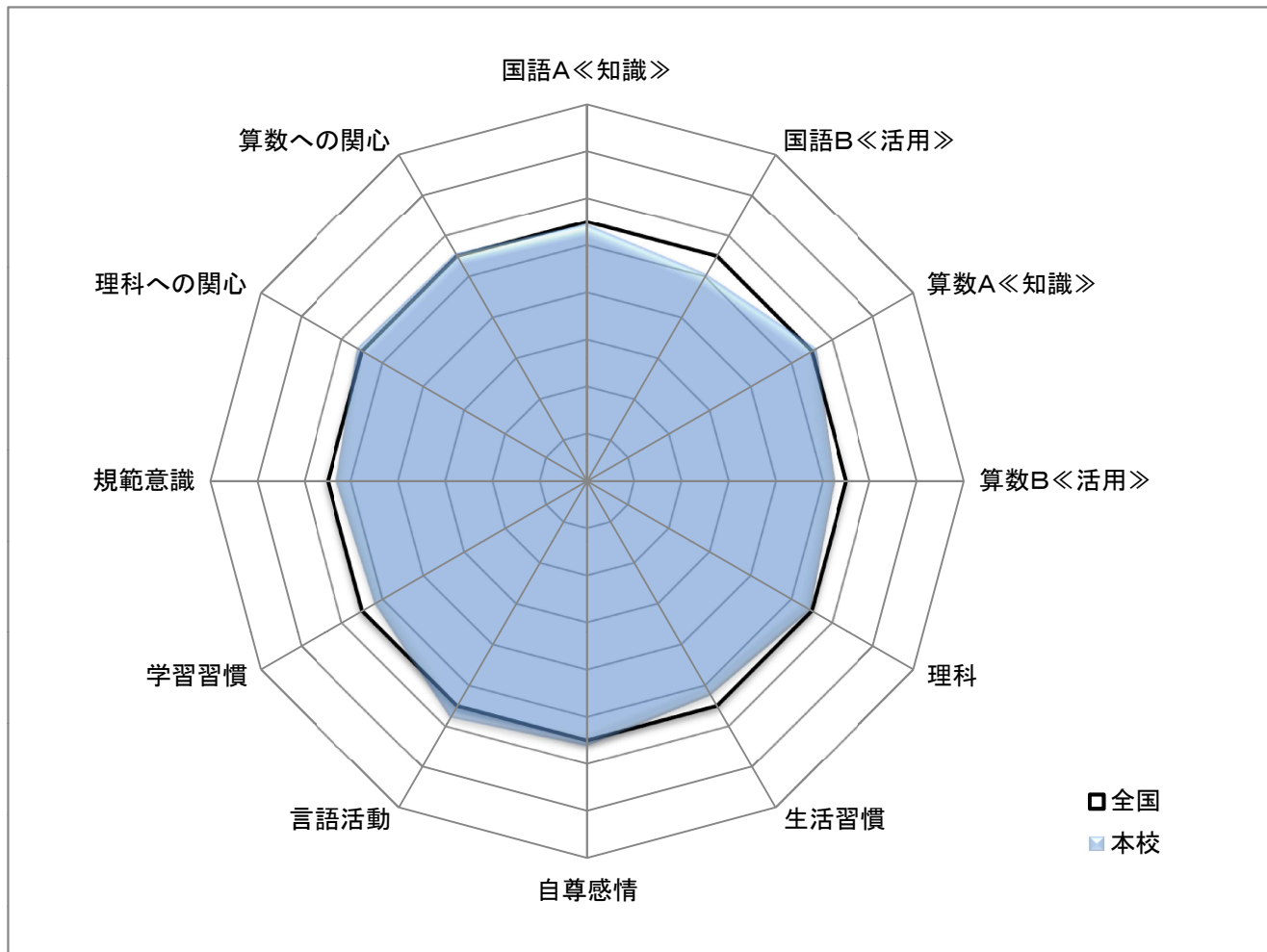


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語A、算数A、理科については、概ね全国の平均に近い数値となった。一方で国語B、算数Bなど《活用》については、平均点を下回る結果となっている。また、学習習慣についても全国平均を下回っていて、家庭学習も含めた基本的な学習習慣の定着が課題となっている。

《授業改善のポイント》

国語の読み解く力の育成に向けて、ノート指導や説明文読解の指導の充実を図る。また、表現力の育成に向けて読書科との関連も生かしながら調べたことを分かりやすくプレゼンテーションする力を身に付けさせる。
算数においては、3学級5展開の習熟度別指導の効果が表れてきている。完全習得に向けて、実態に応じたきめ細やかな指導を実践していく。補習等の機会も生かして、完全習得を目指していく。
授業規律を徹底し、安心して学べる授業を展開するとともに、児童が主体的・対話的に学習に取り組めるように、意図的・計画的な指導を行う。

《チャートの特徴》

算数Aについては、全国平均を上回る結果となった。3学級5展開の習熟度別指導、年間を通しての補習教室の実施など、基礎基本の定着に向けての取組の成果によるものだと考えられる。一方、国語B・算数Bなど、《活用》に関わるものについては、全国平均を大きく下回ってしまった。基礎基本の定着に加えて、他教科との横断的な指導や学習したことを実生活に生かしていくような幅広い指導が必要となってくる。学習習慣についても全国平均を下回っている。家庭学習の習慣が十分に身につけていない様子があるので、学習習慣の定着に向けて指導を行っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

個人面談での学力調査の結果についてのアナウンス、1年生から継続した学力調査の実施など、学力向上への関心を高めるための取組を行っている。また、家庭学習キャンペーンや生活リズム向上週間などを設定し、最低でも学年×10分以上の家庭学習時間の確保や読書習慣の確立を促している。